

ケネー経済表のマルクスによる解説 (①)

出典は (マルクス・エンゲルス選集第 14 巻。『反デューリング論』

・2 篇第 10 章「批判的学史」) (① p416 ~ p 425)

マルクスは、『反デューリング論』・2 篇第 10 章の「批判的学史」の中で、次のようにケネーの「経済表」を紹介している。

※フランソワ・ケネー (1694 ~ 1774) 経済表 (1758)

※アダム・スミス (1723 ~ 1790) 国富論 (1776)

-----

「重農学派は、ケネーの『経済表』 (1758 年) という 1 つの謎をわれわれに残した。

一国の富全体の生産と流通とに関するフィジオクラート (重農主義者) の観念を一目で分かるように示す筈であったが、…この表は、その後の経済学会にとっては極めて分かりにくいものであった。」

・重農主義者の理論では、社会は次の 3 階級に分かれている。

(1) 生産的な、つまり現実には農業で働いている階級—借地農業者と農業労働者。

彼らが生産的と呼ばれるのは、その労働がある剰余即ち、地代を残すからである。

(2) その剰余を自分の物とする階級。地主やこれに従属する人々、国王や国家によって支給を受ける官吏、そして最後に 10 分の 1 税の横領者という特殊な性質を持った寺院をも含む。」

・簡単にする為に、第一の階級を「借地農業者」と呼び、第二の階級を「地主」、第三は、商工業階級、または不生産階級である。不生産というのは、重農主義者の見解によれば、彼らは生産階級から提供された原料に対して、ただ彼らが生産階級から提供された生活資料を消費するのと同じだけの価値しか付け加えないからである。

・そこでケネーの『経済表』が明らかにしなければならないことは、一国 (フランス) の年々の総生産物が、これら 3 つの階級の間にどのように流通し、また年々の再生産にどのように役立つか、ということである。

・『経済表』の第一の前提は、ケネーの時代の意味での借地農制度とそれに伴う大規模農業とが一般に普及していること。その際、手本となったのは、ノルマンディ、ピカルディなどフランスの二、三州である。

・従って、借地農業者は農業の現実的指導者として現れ、『経済表』では生産的階級全体を代表し、地主に対して貨幣地代を支払うのである。

借地農業者総体は 100 億リーブルの投下資本または資産を持つものとされ、その内の五分の一つまり 20 億リーブルは、年々補填される経営資本だとされているが、この見積もりは、前記諸州の最もよく耕作されている借地農場を標準としたものである。

・その他の前提は次の通りである。

(1) 単純化の為に、価格は不変で、単純再生産が行われる。

(2) ただ 1 階級だけの内部で行われる流通は除外され、単に階級間の流通だけが考慮される。

(3) 経営年度内に階級から階級へと行われる一切の売買は、ただ一個の総額に総括されている、ということである。

・最後に、ケネーの時代にはフランスでは、・・・農家本来の家内工業は、食料品以外の自分たちの必需品の大部分を調達したのであって、従ってここでは、それが農業の当然の付属物として前提されている、ということを記憶しておかなければならない。

・『経済表』の出発点は、総収穫、つまり、『経済表』のすぐ上部に示されている年々の土地生産物から成っている総生産物、またはその国、－ここではフランスの「総再生産」である。この総生産物の価値量は、商業諸国民のもとでの土地生産物の平均価格に従って評価され、50 億リーブルとなっているが、この額は、当時のフランスの農業総生産物の貨幣価値をほぼ言い表している。

・だから、50 億の価値をもつこの総生産物は、生産的階級の、つまり、百億の投下資本に対応する年額 20 億という経営資本を支出してそれを生産した借地農業者の手中にある。

・経営資本の補填に必要な、それ故また農業に直接従事する一切の人々の生計に必要な、農業生産物、つまり生活資料や原料等は、現物のまま総収穫から控除されて新たな農業生産に支出される。価格の不変と単純再生産が前提されているから、総生産物のうち控除されるこの部分の貨幣価値は、20 億リーブルに等しい。それ故この部分は、一般的流通に入り込まない。(※)

(※注：前提(2)により、流通は、それが 1 階級の範囲内だけで行われる流通は、別々の階級間で行われるのでない限りは、『経済表』から除外されているからである。)

・総生産物から経営資本の補填を除けばあとには 30 億の剰余が残るが、うち 20 億は生活資料、10 億は原料である。

借地農業者から地主に支払わなければならない地代は、20 億である。どうしてただこの 20 億だけが「純性差物」または「純所得」の見出しのもとにでてくるかは、やがて明らかになるであろう。

・ところが、50 億の価値をもつこの農業的「総再生産」－そのうち 30 億が一般的流通に入り込む－他に、『経済表』の中に示された運動が始まる以前に、なお国民の総「貯蓄」である 20 億の現金が借地農業者の手中ある。事情はこうである。・・・

・『経済表』の出発点は同時に一経済年度の終点をなすものであって、これに続いて新しい経済年度が始まる。総生産物のうち流通に入るように定められた部分は、新年度中に他の 2 階級の間に分配される。だが、これらの一年度全体にわたって行われる運動は、『経済表』にとっては、・・・一年度全体を一挙に含む行為のうちに総括される。

こうして、1758 年の終わりには借地農業者階級が 1757 年に地代として地主に支払った貨幣つまり 20 億は、再びこの階級に流れ帰り、これによってこの階級は、この金額を 1759 年に再び流通に投げ入れることができるのである。

・地代を巻き上げる地主階級は、まず支払いの受取人の役割で現れる。ケネーの前提によれば、本来の地主は 20 億の七分の四だけを受け取り、七分の二は政府に、七分の一は税受取人（官吏）の手にはいる。

ケネーの時代、寺院はフランス最大の地主であって、その上なお、他の一切の土地財産から十分の一税を受け取っていたのである。

・「不生産的階級」が一年度に支出する経営資本（年前貸）は、10 億の価値をもつ原料である。というのは、道具や機械などは、この階級自身の生産物の内に入るからである。これらが『経済表』に無関係なのは、専らその階級内部で行われる商品流通と貨幣流通

がこれに関係しないのと同じことである。

- ・不生産階級が原料を加工商品に転化する労働に対する報酬は、この階級が一部分は直接に生産階級から、一部分は間接に地主を通じて受取る生活資料の価値に等しい。

この階級は、それ自身、資本家と賃金労働者とに分かれるとはいえ、ケネーによれば、一階級全体として、生産階級と地主階級とのお雇いものである。

- ・工業的総生産物とそれらの総流通とは、同様にして一個の全体に総括されている。

それ故、『経済表』に示された運動の開始にあたっては、不生産的階級の年々の商品の生産高は、ことごとく彼らの手中にあるということ、従って彼らの全経営資本、つまり 10 億の価値をもつ原料が 20 億の価値をもつ商品に転化され、この半分はこの転形中に消費された生活資料の価格を表すという事が前提されている。(p425)

(①了)

ケネー経済表のマルクスによる解説 (②) (選集 14 p 425 ~ 428)

- ・こうして、われわれは、『経済表』によって示される運動が開始する際の、3 つの階級の経済的地位を知ることができた。

- ・生産階級は、彼らの経営資本を現物補填した後に、まだ 30 億の農業総生産物と 20 億の貨幣とを自由にしている。地主階級は、当初は、生産階級に対する 20 億の地代請求権をもって現れるにすぎない。不生産階級は、20 億の加工商品を自由にしている。

なお、重農主義者の見解では、これら 3 階級のうち 2 階級間だけの流通は不完全な流通と呼ばれ、3 階級全体の流通は完全な流通と名付けられている。

- ・『経済表』について。

- ・第一の（不完全な）流通。借地農業者は、地主に対して、反対給付なしに地主の受け取るべき地代を 20 億の貨幣で支払う。そのうち 10 億で地主は借地農業者から生活資料を買う。こうして、借地農業者から地代として支払われた支出の半分は自分たちに流れ戻る。

- ・第二の（完全な）流通。地主はその手中に残っている 10 億の貨幣で、不生産階級から加工商品を買ひ、この不生産階級はこうして得た貨幣で借地農業者から同額の生活資料を買う。

- ・第三の（不完全な）流通。借地農業者は 10 億の貨幣で不生産的階級から同額の加工商品を買うが、この商品の大部分は、農業用具やその他の耕作に必要な生産手段から成り立っている。不生産階級は、この同じ貨幣を借地農業者の手に返すが、それは、彼らが自分たち自身の経営資本の補填の為に 10 億だけ原料を買うからである。

そこで、借地農業者が地代支払いの為に支出した 20 億の貨幣は、自分たちの手に戻り、こうして運動は完了した。これによって、「地代として獲得された純生産物は経済的循環においてどうなるか」という大きな謎も解決されたのである。

- ・(まとめ) この全経過は、たしかに「かなり簡単」である。流通に投じられるのは、借地農業者の手によっては、地代支払いの為に 20 億の貨幣と、三分の二が生活資料で、三分の一が原料である 30 億の生産物とであり、不生産的階級の手によっては、20 億の加工商品である。20 億の生活資料のうち、その半分は地主とその一味によって消費され、他の半分は不生産的階級によって彼らの労働の支払いに消費される。

10 億の原料は、同じ階級の経営資本を補填する。20 億の額の流通加工商品のうち、半分

は地主の手に入り、他の半分は借地農業者の手に入るが、これは借地農業者にとっては、直接に農業的再生産から得られた、彼らの投下資本に対する利子の、一つの転化形態にすぎない。

・ところが借地農業者が地代を支払うために投入した貨幣は、彼の生産物の販売を通じて自分の手に流れ戻るものであり、これによって同一の循環が次の経済年度には新たに行われるのである。

(②丁)